

アライプロバンス

浦安で3・4万²m²超の物流センター竣工

著名な建築家が外構部をデザイン



「アライプロバンス浦安」の外観

デザインがとりいれられている。首都高湾岸線浦安ICから約3kmで、巨大消費地と京浜港、首都圏空港（成田・羽田）、JR貨物の東京貨物ターミナル駅などの主要物流拠点とのアクセスに優れる。2階にスロープを設置することによって1・4階、2・3階の2層利用が可能。なお、浦安市内の賃貸物流施設において、スロープ型の施設は初めてとなった。

各区画に荷物用エレベータと垂直搬送機を設置し、上下搬送機能も充実。トラックベースは高床式で、有効天井高は5・5m、床荷重は1階が2t/m²、2～4階が1・5t/m²を確保。屋上に自家消費用の太陽光パネルの設置も計画する。現在、半分のスペースに日通・Nプロジェクトの入居が決まり、残りのスペースもテナントを募集している。

同施設の外構部のデザインを著名な建築家（一級建築士）の

菅原大輔氏が担当。敷地内の物流施設の周りに「道の庭」「海の庭」「四季の庭」のコンセプトの異なる3つの庭を整備した。建設残土を左官材料として使ったバス休憩待合所も建設。他の物流施設にはないランドスケープが実現し、グッドデザイン賞も狙う。

竣工式で新井社長は、「当社は明治36年に新井鉄工所として創業し、100年以上にわたって金属加工業をなりわいとしてきた。昨年7月、社名をアライプロバンスと改め、第二の創業として不動産業に進出した。そして初のプロジェクトとして、『アライプロバンス浦安』が完成した」と説明。

「当施設は物流倉庫として最新の機能・設備を備え、当社のモットーである遊び心を加え、心安らぐ憩いの場として植栽豊かな3つの庭をつくった。来年には江戸川区東葛西の工場跡地に賃貸用大型物流倉庫の着工を予定している。オフィス、マンションの開発も手掛け、チャレンジ精神ナンバーワンの総合不動産カンパニーを目指す」とあいさつした。

新井太郎専務は「当社はもと



施設の特徴となるスロープ



デザイン性のあるバス休憩待合所



水辺に面した「海の庭」

もと100年以上、製造業一本でやってきたが、時代の大きな波により、5年前に経営の大きな岐路に立たされた。様々な選択肢がある中で、100年続いた経営の灯（ひ）は決して絶やしてはならないという強い信念のもと、昨年総合不動産会社としてアライプロバンスを発足した」と振り返った。

言ではない。これからも小回りが利く機動力を活かし、ありきたりではない独自の徹底追求し、皆様に喜んでいただき、わくわくしてもらえそうな面白い事業を展開したい」と意欲を見せた。

思いについて語った。

さらに、「すばらしいテナント様にご入居いただき、皆様にお祝いをいただきながら竣工を迎えられた。当社の歴史はチャレンジ精神の歴史と言っても過

なお、竣工式では設計施工を担当した西松建設の高橋優現場所長とデザイナーの菅原大輔氏によるトークセッションも行われ、「アライプロバンス浦安」の魅力や込めた



テープカット
（左から3番目が新井専務、4番目が新井社長）